

中高生・大学生
に向けて

よき交通社会人となるための 安全運転の基礎を伝える

活動テーマ

事故当事者になりうることを
認識してもらう

2009年の主な活動

- 4月** ●埼玉県の県庁にて「知事と学ぶ交通安全～力を合わせてシミュレーターに挑戦」にHonda自転車シミュレーターとHondaセーフティナビを出版
- 6月** ●静岡県的高等学校にて「自転車交通安全教室」を開催(～12月)
●三重県の中学校にて「自転車交通安全教室」を開催(～11月)
- 7月** ●熊本県的高等学校にて「高校生二輪車安全運転教室」を開催
●静岡県の小学校にて「自転車交通安全教室」を開催(～10月)
- 10月** ●静岡県の中学校にて「自転車交通安全教室」を開催(～11月)
●熊本県の大学にて「大学生二輪車安全運転教室」を開催
- 11月** ●栃木県的高等学校にてHonda自転車シミュレーターを使った「自転車交通安全教室」を開催
●茨城県の中学校、高等学校にてHonda自転車シミュレーターを使った「自転車交通安全教室」を開催

自転車乗用中に最も事故に遭いやすい年代は16～24歳であり、次に多いのは15歳以下です。中学生から大学生に相当するこの年代は、交通社会に「運転者」としてはじめて仲間入りする時期でもあります。自転車や二輪車を通じて安全運転の重要性や危険予測を身につけていただくことが、事故の防止につながると考え、Hondaでは中学生・高校生・大学生への交通安全教育に取り組んでいます。

自転車運転時の危険を安全に体験する

地区普及ブロックでは、中学生・高校生向けに「Honda自転車シミュレーター」を活用した自転車交通安全教室を開催。さらに地域の交通安全活動に積極的に取り組まれている自動車教習所とも連携し、自転車シミュレーターを活用した指導マニュアルづくりや、指導者の育成も行っています。

中学生・高校生対象の自転車交通安全教室開催に対しては、自治体や警察、地域からの要請も増えてきています。浜松普及ブロックでは、地元警察署と連携して、市内の中学・高校への自転車教育に取り組んでいます。例えば、浜松工業高等学校や中野学園オイスカ高等学校などの生徒に対し、自転車シミュレーターを使って安全な乗り方を指導しました。

また、提携教習所でも自転車教育を積極的に行っています。青森モータースクールでは地元の高校を対象にした交通安全教室の中で、自転車シミュレーターを使った集合教育を実施。生徒のひとりに携帯電話のメール操作や、傘をさし



自転車シミュレーターを活用した自転車交通安全教室(鈴鹿普及ブロック)



「埼玉県知事と学ぶ交通安全」にて活用される自転車シミュレーター



中野学園オイスカ高等学校での自転車交通安全教室(浜松普及ブロック)

ながらの運転を体験してもらい、その運転を生徒同士で振り返り、危険に気づいてもらうというものです。体験した生徒からは、「これからはルールやマナーを守るよう心がけたい」など、運転の問題点に関する「気づき」を感じさせるコメントも聞かれました。また、デルタ自動車四条教習所では、京都市内の高校生を対象に「自転車交通安全教室」を開催し、自転車シミュレーターを使いながら、運転時の危険予測ポイントを説明しました。自転車の安全運転教育を通じて、将来のライダー・ドライバーとして必要な、安全運転の基本を身につけていただきたいと考えています。

事故から身を守るための運転方法を伝える

通学で二輪車を利用している高校生や大学生ライダーを対象にした、「二輪車安全運転教室」も行っています。熊本普及ブロックでは、大津高等学校、立命館アジア太平洋大学（APU）の学生を対象に、パイロンスラローム、急制動など「走る・曲がる・止まる」という基本を身につけるための実技のほか、日常点検の重要性についても説明しました。また、大津高等学校では被害事故に遭うケースが多いという同校の事故実態を踏まえ、生徒に四輪車から見た死角を体験して

もらい、死角に入らないような運転を心がけるよう指導をしています。

動画で危険予測をトレーニング

交通教育センターでは、高校生を対象にした「二輪車安全運転講習会」でパイロンスラロームなど二輪車の実技指導を行っています。さらに実技だけでなく、実際の運転に近い状態で交通事故の危険を学ぶことができる「動画KYT（危険予測トレーニング）・二輪車編」を導入。はじめに、コンピューターグラフィックの運転映像を見ながら、生徒一人ひとりに危険だと思ふ箇所を考えてもらった後、どの場面が危険か、危険を招かないためにどうするべきかなど、生徒同士でディスカッションをし、自分以外の人の考えや見方を学びます。これにより二輪車を運転する際の、危険を予測する能力をさらに高めることができ、事故を未然に防ぐことへの教育効果が期待されています。



大津高等学校の学生への二輪車の安全運転教室。まずは座学で理解していただく(熊本普及ブロック)



四輪車から見た死角体験で危険を実感(熊本普及ブロック)



自転車シミュレーターによる集合教育(青森モータースクール)



動画KYTで危険予測能力を高める(アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ)



交通教育センターの一つアクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、栃木県立真岡工業高等学校に原動機付自転車で通学する生徒91人を対象に、原付安全運転講習を実施。生徒たちは実技と動画KYTを組み合わせた講習により、事故に巻き込まれないための運転を学んだ